

夏季休業中の生徒指導

海水浴、花火、カブトムシにかき氷、盆踊りと夏祭り。夏はどきどき、わくわくの連続です。子どもたちにとっては最高の40日間あまり。ふだんできないことを思う存分やることができる最高の機会でもあります。この時をぜひ充実したすばらしい体験の日々にしてほしいと願っています。

そのためにも、夏休み前、夏休み中、そして夏休み後と、十分な指導と子どもたちとの対話を大事にして、思い出の1ページを一緒に刻んでまいりましょう。

1 家庭や地域との連携

家庭や地域との時間をいっぱい持たせましょう。家族との絆を深め、地域との交流を大切にしましょう。普段できない体験がいっぱい！きっと心の栄養をたくさん吸収できるはずです。充実の夏のために、次のことへの配慮、注意をお願いします。



< 命を守る >

① 安心と安全

自然とのかかわりの中での事故と人的な事故が予想されます。事前に予見、予知し、未然に防ぐことが一番です。もし事故が生じたとしても、冷静に判断し、必要な情報を共有し、すばやく対応することが重要になることはいまでもありません。まずは、命を守ることが最優先です。

ア 水の事故

海の事故、特に波にさらわれる水脈（みお）と呼ばれる離岸流は注意です。大丈夫だと安易に考えてはいけません。ぜひ子どもたちには、遊泳禁止の場所では泳がないこと、監視員の注意にきちんと従うことを必ず守らせましょう。

また、川や池の事故も油断禁物です。釣りや水遊びをしていて、つい足を滑らせることもあります。小さい子どもたちだけの遊びは危険です。近くで見かけた大人が、きちんと注意していくことが安全の第一歩です。万が一の時は素早く周囲の大人の力を借りるのです。地域と連携し、みんなで子どもの命を守りましょう。

イ 陸の事故

交通事故を起こさない、遭わないが一番です。しかし長い休みのため、気もゆるみがちになりやすいものです。自転車、徒歩での無理な道路横断。二人乗りでハブステップに立ち乗り、蛇行運転。危険な乗り方は事故のもとです。また、通学以外で自転車に乗る時のヘルメット着用は家庭の判断ですが、衝撃度の差は歴然です。自分の命は自分で守ることを基盤にし、安全対策については万全を期したいものです。

ウ 対人に関わる事故

暴力行為によるトラブルは偶発的に生じる可能性が高いようです。計画的なものもありますが、繁華街やゲームセンター等の人が集まる場所では、トラブル発生率がいっそう高くなります。近寄らないという方法もありますが、服装や言動をきちんとすることで、声がかかりやすくなるようにすることがポイントのようです。気持ちの持ち方ときちんとした服装や態度を日頃から体感させていきたいものです。

< 心を守る >

② インターネットと携帯電話

速く情報伝達ができる時代となりました。何時間もかかっていたことが数分で終了し、わざわざ行かなくても瞬間的に状況が映像でわかってしまう今日です。ただ、姿形を直接見ることができないので、その裏に隠されたものが甘いワナとなって、罪もない人たちを陥れようとするのも多々あります。

メール、掲示板、ブログ、プロフ、モバゲー等、取り上げたらきりがありません。たとえば子どもたちを守るためのフィルタリングがあります。ぜひ保護者の責任のもと、きちんとアクセス防止をしていくことが肝要です。それ以上に大切なのが心のフィルタリングです。情報をきちんと選択し、何が真実で何がうそなのかをしっかりと見極める力を発達段階に応じて理解させていきましょう。

世の中は甘いワナがいっぱいです。たとえ、半歩踏み入れてもだいじょうぶなように、すぐに子どもたち自身が周囲の大人に相談できるような体制作りが常に重要です。

2 学習活動の充実

① 課題だけでなく、復習と予習

まずは夏休みの課題をしっかりと終えることが優先でしょう。学校や家庭で学習するだけでなく、図書館や博物館、資料館など、調べるところはたくさんあります。ぜひ、生きた学習を進めてまいりましょう。

② 部活動

スポーツや文化活動に取り組むことで、その技量を高めるだけでなく、仲間関係づくりを学べる絶好の機会です。また、互いにみがき合うことで、心身共に成長していくことが期待できるでしょう。

ア 熱中症対策

きちんと水分補給をし、合間の休憩をきちんと取る練習計画を立てましょう。無理な練習は心身ともに健全な成長に障害を及ぼす可能性があります。子どもたちの力を十分に見極めて活動をリードしましょう。

イ 保護者との連携

保護者の思いと指導者の思いが近いことが、円滑な部活動運営の基礎になります。両者の思いが遠くなってしまえば、悩み苦しむのは必ず子どもたちです。ぜひ、十分な相互理解ができる環境づくりをしてください。明日を担う若者たちが、大きく羽ばたいてもらうためにも、見えないところでの連携が、子どもたちの成長の糧となっていると実感します。この夏休みの中でも、相互理解をしていくことが子どもたちの幸せにつながっていくのです。

保護者の方々、先生方ともに普段できない体験をされて、9月以降のエネルギーの源になるよう充電してください。身も心もリフレッシュ・タイムです。

夏休みの成果は善くも悪くも数ヶ月後に現れます。ぜひ、充実したすばらしい体験の日日にしてください。万が一たとえ失敗したとしても、それがやり直しのできる状況であってほしいと切に願います。ですから、二度と失敗できないものである「命と心」を何よりも最優先に重視し、忘れることなく、楽しく充実した夏休みであることを願っています。

不祥事の根絶について

～信頼される学校・教職員をめざして～

教職員の服務規律の厳正及び不祥事の根絶については、管理課の重点課題として取り組んでいます。各学校においては、教職員一人一人の意識改革と職場風土の改善を推進し、不祥事を根絶するために校内研修会やモラルアップ委員会等の取り組みを行っていただいているところですが、以下の内容について、再度確認させていただきます。

① セクハラ・わいせつ行為の防止

☆児童・生徒に対するセクハラ・わいせつ行為は、重大な人権侵害です。

☆被害者に一生癒すことのできない深い心の傷を残すものです。

【スクールセクハラ根絶キャンペーン標語】『親しみと想っているのは、あなただけ』

② 飲酒運転及び交通加害事故の防止

☆飲酒運転は、何の関係もない人を突然不幸におとし入れる極めて悪質な違法行為であることを再認識してください。

③ 体罰の防止

☆『体罰に教育効果なし』との認識を強く持ち、教職員の共通理解と指導の連携が図れるようにしてください。

④ 公金等の適正な管理

☆公金は県民の税金です。

☆児童生徒や保護者から徴収したお金の不正な処理は、絶対に許されません。

⑤ 情報漏洩の防止

☆児童生徒等の重要な個人情報を扱っているという認識を強く持ち、適切に管理してください。



韓国 半月初等学校との交流

山武市立鳴浜小学校

1 国際理解教育のねらい

- (1) 外国のよさを感得しつつ、日本人が古くから築きあげてきた日本文化のよさを再発見することで、日本人としての自己の確立を図る。
- (2) 広い視野をもち、異文化を理解してこれを尊重する態度や異なる文化をもった人と共に生きていく国際人としての資質・能力の育成を図る。
- (3) 相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意志を表現するために、外国語能力の基礎や表現力（コミュニケーション能力）の育成を図る。

2 交流経過

平成元年（1989年）

- ・日韓農村友情文化交流の会場となり、仮面劇「タルチュム」の公演（この一行の中に、半月初等学校の卒業生がいた。）

平成3年（1991年）

- ・姉妹校締結

平成4年（1992年）

- ・隔年で、交流を開始

平成21年（2009年）

- ・6月8日（月）から6月11日（木）の4日間訪問

3 交流活動の様子

本校では、平成3年より日韓友好親善を図ろうと姉妹校を締結し、友好を深めてきた。本年度は、19年目を迎えた。

6月8日は、ホームステイ対面式、6月9日は、体育館で「歓迎・アンニョンハセヨ集会」を行った。集会では、和太鼓で「大漁節」を演奏し、半月初等学校の皆さんを迎えた。全校で「ソヌルチャバヨ」（手をつなごう）を合唱したり、学年ごとに「日本のあそびうた」「森のキツツキさん」「ソーラン節」の発表をしたりした。

また、地域の皆さまのご協力により、地元白幡神社の皆さまの神楽舞や空手演舞が披露され、日本の伝統文化にもふれることができた。

今後もお互いの教育情報を交換し、さらに友好を深めていきたいと考えている。



〈大漁節による入場場面〉



〈5, 6年生発表〉



〈白幡八幡神社伝承文化保存会の発表〉





「心と言葉の育成を目指して」

睦沢町立土睦小学校

土睦小学校は、千葉県ほぼ中央部、長生郡の南西部、睦沢町にある全校児童数245人の学校です。自然に囲まれた緑豊かな学校で、子ども達は伸び伸びと活動をしています。

本校の読書活動の実践、一つめは、読書タイムの設定です。平成20年度は毎週月曜日と木曜日に30分間ずつの読書タイムを教育課程の中に位置づけていました。この読書タイムは基礎基本の定着、学習習慣づくりのほかに、読書好きな児童を育てるために効果的でした。読書タイムの時間は、図書室や学級文庫の本の他に、各自が家から持ってきた本を熱心に読む姿が見られます。

二つめの活動は、「読み聞かせ」の実施です。低学年及び特別支援学級で、学級担任による読み聞かせを実施しています。平成18年度・19年度はボランティアの方の協力をいただき、特別支援学級・1年・2年・3年生に週に1回、読み聞かせを行いました。低学年の子ども達は読み聞かせをしてもらうことが大好きです。自分で本を読むことにはすぐ飽きてしまったり、苦手だったりする児童も読み聞かせをしてあげると、とても静かにお話を聞いています。一冊終わると「もっともっと」と催促する姿も見られます。一度読み聞かせて読んであげた本を子ども達は自分でも読みたがります。読み聞かせを行うことは、読書への意欲を高めることにつながると考えています。

三つめの活動は、国語科の学習と関連させていることです。平成18年度から、校内研究で国語科の学習指導について研究をしています。国語科の学習の中でアニメーションゲーム（読書を楽しみ親しめるようなゲーム）を行ったり、教材と関連のある図書を教室に用意したり、図書室を積極的に活用したりしています。



また、本校の図書室の特徴に図書のデータベース化があります。図書の登録をコンピュータで行い、管理しています。貸し出しや返却もパソコンで行っています。児童は一人一枚図書利用カードを持っていて、本を借りる時にこのカードを使用します。貸し出しや返却は図書委員会の児童が当番で行っています。コンピュータで管理することで、貸し出しや返却の作業がスムーズにでき、クラス別の貸し出し冊数や月別の利用率などをすぐに見ることが出来ます。

この他にも学級で一人一冊おすすめの本を紹介し、それを冊子にまとめた「〇年〇組おすすめの本集」を作ったり、子ども達が本の紹介を行うブックトークを授業の中で取り

入れたりするなど、各学年、学級が工夫した取り組みを行い、読書活動への意欲化を図っています。

土睦小学校ではこれからも、読書好きな児童を増やし、心と言葉が豊かな児童の育成を目指し、活動を続けていきたいと思っております。

お知らせ

平成21年度社会人権教育地区別研修会（東上総地区）

- ・目的 社会人権教育推進上の諸問題について研修し、人権教育の充実を図る。
- ・日時 平成21年7月24日（金）午後1時～
- ・会場 夷隅文化会館